

## 第1回生駒市総合計画審議会 第二部会

開催日時 平成30年7月19日(木) 13時30分～14時30分

開催場所 生駒市役所4階 401・402会議室

出席者

(委員) 久部会長、中谷委員、楠下委員、中山委員

(事務局) 坂谷秘書企画課長、岡村秘書企画課課長補佐、日高秘書企画課主幹、  
片山秘書企画課員

欠席者 なし

1 開会

2 案件

(1) 各小分野の検証 (No.311・312・313・321・322・331・332・341・342)

(2) その他

3 閉会

以下、発言要旨

1 開会

【事務局】 ただいまから、第1回総合計画審議会 第二部会を開催します。

【事務局】 (資料確認)

2 案件

(1) 各小分野の検証

No. 311 土地利用

【久部会長】 行政の進捗度も審議会の進捗度もCである。かつて農地は早期に宅地化する方向だったが、都市緑地法改正により、市街化農地は保全する方向に国が方針を変えた。宅地化農地の面積の位置付けは、指標も含めて新しい都市緑地法に合わせて考えてほしい。

【楠下委員】 農地活用は、生駒市の環境を変える上で重要な課題であり、長期的展望による既存の緑地への早期の対応が必要である。市民実感度は比較的

良いが、長期計画への市民の理解度は疑問である。長期的な姿を具体的に明確にすれば、市民実感度はもっと上がると思う。

【中谷委員】 平成34年に30年経過を迎える生産緑地は、再度生産緑地に認定することもできるが、現行の法律では事業主に生駒市に戻したいという意向がある場合、市が買い取り、公共事業に活用しなければ普通の農地に代わることになる。保全すべき農地と、生産緑地が市街化となった場合の農地転用という相反することをどのような形で計画に盛り込むかを考えなければならない。

【久部会長】 国は全国一斉に買い取りの申し出があることを見越して特定生産緑地制度を作り、再度特定生産緑地に指定すれば10年毎に更新可能にした。まずは農家と、農地転用か、特定生産緑地として10年毎に目標を定めて農地とするかを考え、農業振興と市街化区域内農地の保全を連動させることが必要である。ますます施策連携が重要である。それなりに成果が出ているため、「土地利用」はCで良いか。

【各委員】 (異議なし)

## No. 312 住宅環境

【久部会長】 行政の進捗度も審議会の進捗度もCである。バリアフリーのリフォーム申請件数が減少気味のため再度周知が必要である。空き家対策が本格化すれば、リフォームへの注力が必要になる。

【事務局】 今年、生駒市空き家等対策計画を策定したため、これに基づいて今後進めていく。不動産関連と行政による、空き家を流通させるための中間組織として空き家流通促進プラットフォームを作っている。

【久部会長】 気軽に事前相談ができれば良い。子どもは両親の死後に初めて空き家の対処を考える。空き家流通促進プラットフォームに相談すれば何らかの対応を考えてもらえるという情報を提供しておくことが必要である。

【事務局】 死亡届提出時の周知を考えている。自分の死後に相続者がいないことで土地の寄付を要望されることがあり、家屋がある場合は、住宅政策室につなげている。相談窓口も月に1回、または2か月に1回開いている。

【久部会長】 早い段階で死後のことを相談してもらえれば良いと思う。

- 【楠下委員】 地区計画に基づく空き家対策でなければ、街並みが崩れることもある。
- 【事務局】 地区計画の見直しも進んでおり、住民にも考えてもらっている。
- 【久部会長】 ミニ開発はすぐには買い手が見つかるが、郊外ニュータウンは区画が大きく高額のため若い人はなかなか買えない。敷地分割すると環境が崩れるということでそのまま売るため空き家になりやすい。地区計画と今後の住宅地の姿を考える必要がある。
- 【楠下委員】 空き家活用をもっと柔軟に考えなければならない。
- 【事務局】 都市計画課に空き家を所管する住宅政策室を作り、連携を考えている。
- 【楠下委員】 他市では空き家を外国人も宿泊可能にしたところ、マナーなどの課題が出ている。具体的な事例で検討する必要がある。
- 【久部会長】 ここで言う住宅環境で想定されるのは「良好な住宅環境がそのままの形で守れる」ことだが、空き家の発生を考えると将来的な良好な住宅環境のイメージは変わる。市街化農地同様、時代が変わると土地利用や建物利用のあり方も変わるため、次のステージも見越しながら検討すべきである。「住宅環境」はCで良いか。
- 【各委員】 (異議なし)

### No. 313 拠点整備

- 【久部会長】 行政の進捗度も審議会の進捗度もCである。
- 【中谷委員】 リニア中央新幹線は第2工区の開発とセットで考えているのか。
- 【久部会長】 未定のリニア中央新幹線を評価するのは難しく、悩ましい問題である。
- 【事務局】 第2工区のビジョンについて来年にかけて地域のマスタープランを作るため、それも見越して第6次は作りたい。昨年、第2工区の有識者懇談会で作ったまちづくりの案に、リニア中央新幹線のことは具体的に書かれていない。
- 【中谷委員】 できる場所が決まれば、第2工区も早く決まる。
- 【事務局】 有識者懇談会の案で、第2工区をにぎわいゾーンや居住ゾーンなどの6つのゾーンに分けて検討しているが、位置が決まっていない。
- 【久部会長】 他市の丘陵地区整理では、民間企業が先行買収している土地が面積の半分あり、市役所に譲渡したが、活用できない斜面地を市がもち、使い

勝手が良いところは地権者に返している。市がもつ土地は森林として守るためボランティアに管理をお願いすることとしている。

【久部会長】 生駒市に駅ができて、利用者のイメージができない。

【楠下委員】 関西学研都市の機能とリニア中央新幹線が繋がらなければもったいない。生駒市はその一部という位置づけだと思う。

【久部会長】 ネットで情報交換できるため、時間をかけて人が動くのか疑問である。けいはんな線の三駅の乗降客が昨年から急激に伸びている理由は何か。

【事務局】 学研奈良登美ヶ丘駅周辺の大規模開発で人口が増えていることが大きい。

【楠下委員】 京都寄りの人も利用していると思う。地下鉄の中央線の利用も便利である。学研奈良登美ヶ丘駅西側は宅地開発も進んでいるため人口は増えると思う。

【事務局】 市は、北生駒駅周辺のまちづくりを進めており、地元との検討会を定期的に行っている。

【久部会長】 生駒駅北口の再開発を指していた「拠点整備」は文言を変えた方がよい。

【事務局】 今の再編では土地利用と拠点整備を合わせて「都市づくり」という分野に統合している。都市拠点は生駒駅と東生駒駅、地域拠点の南は南生駒駅、北はけいはんな線の三駅だったが、都市計画課と一緒に、北生駒駅を中心に地域拠点としてまちづくりを進める方向で話をしている。

【楠下委員】 その際に先端大や学研都市の入口になる学研都市との連携も考えてほしい。先端大には海外から千何百人も来ているため、海外の交流拠点も意識したまちづくりをお願いしたい。

【久部会長】 北部、中部、南部という3ゾーンで拠点を考えがちだが、竜田川沿いの旧生駒町と富雄川沿いの旧北倭村は特徴が異なるため、生駒駅と北生駒駅という2つの顔で考えることもできると思う。

【中山委員】 東山駅は開発が進んでおり、エレベーターも設置されると聞いている。

【事務局】 各駅順番にバリアフリー対策をやっており、エレベーターも設置する。

【中山委員】 近畿大学医学部奈良病院は生駒市で、あの道路で分かれている。

【久部会長】 南生駒駅は東側がすぐ山、西側がすぐ川で開発が難しい。東側は様々

なものを立地させやすい。評価としてはCで良いか。

【各委員】（異議なし）

#### №. 321 道路

【久部会長】 行政の進捗度も審議会の進捗度もCである。

【中谷委員】 国道163号バイパスは工業団地の真ん中を通るが用地買収ができていないため進まない。企業立地と同じで土地を探さなければならない。

【事務局】 国道163号は国の事業だが、市に協力を求められていることから、事業計画課が同席したり地元の会議に参加しているが、用地買収があまり進んでおらず、第6次計画でどこまで書けるか悩ましい。

【中谷委員】 市外に場所を探すとすると税金が下がり悪循環になる。第1工区を南北に通る道路の西側は1社しか立地しておらず、規制緩和が必要である。その辺りをもっと利活用すれば、国道163号の用地買収もできるのではないか。民間任せではなく、行政が介入して利活用できるように進める必要がある。

【久部会長】 評価はCで良いか。

【各委員】（異議なし）

#### №. 322 公共交通

【久部会長】 行政の進捗度も審議会の進捗度もCである。放置自転車撤去台数は美化の問題だが公共交通の利用と関係するのかわ。台数はかなり減っている。

【事務局】 第6次計画では撤去台数は指標として考えていない。コミュニティバスも苦戦している。地元のニーズを踏まえてルートを作るが実際に走らせると想定よりも乗ってもらえない。電車のダイヤと連動してコミュニティバスのダイヤも変更しているが、一定以上の乗降客数がない。

【久部会長】 検討会では「運行すれば利用する」という意見が出るが、結局誰も乗っていない。あれば良いくらいで、それほど困っていないのだと思う。

【事務局】 市の持ち出しが多いため、今回運賃を値上げする。使い勝手が悪いという意見もあったためルートを変更している。

【久部会長】 2台にすればもっと頻繁に運行できるが、それには経費がかかる。一

定の成果は出ているが、今後の生駒市を考えて、もっと公共交通機関を利用できるよう市民にも頑張ってもらいたい。生駒線の将来はどうなるのか。

【事務局】 生駒線の持続的な運行が課題であることは意識している。

【中谷委員】 乗降客は多い。

【事務局】 ニーズは高いため生駒線の利活用をもっと考えたいと思っている。

【久部会長】 生駒線は途中の住宅地の人が生駒に出たり、王寺に出るという利用だと思う。王寺で関西本線に乗り換えできるため、ルートによっては使い勝手は良い。生駒線沿線のニュータウンの高齢化も課題である。

【事務局】 全体的に通学者、通勤者が減少している。生駒線でも同様だと思う。

【久部会長】 奈良線は中国人観光客が増えている。生駒線も観光で利用できないか。

【楠下委員】 近鉄線は神戸と結んでから海外の人が急増した。生駒を経由する法隆寺を含めた世界遺産ツアーを作り、生駒の食材による食事を楽しんだり宿泊をしてもらえれば、生駒の魅力創造につながる。学研都市や茶釜の里も外国人にとって興味深いと思う。

【久部会長】 交通政策だけでなく、お客さんを増やす仕掛けとして沿線の土地利用や施設と連携してはどうかと思う。

【楠下委員】 生駒にはホテルがない。大阪のホテルは一杯なので生駒で宿泊してもらおう取り組みも入れてはどうか。大阪や京都、奈良に来た人が泊まる場所がなく困っている。古民家再生して宿泊施設にしたり、ホテルを建設すれば、集客できると思う。

【久部会長】 評価としてはCで良いか。

【各委員】 (異議なし)

#### No. 331 5R

【久部会長】 行政の進捗度はC、審議会はBが1人、Cが3人である。

【楠下委員】 市民の協力がありリユース、リサイクルが進んでいる。指標の、一般家庭の1日1人当たりのごみ排出量は目標の573gに対して553gと成果を上げているが、事業所のごみは目指す姿より実績のほうが多いため、事業者へのごみ減量の推進が課題である。再資源化率の向上も課題である。努力はしているためCからBの中間だと思う。

【久部会長】 景気がよくなればごみは増えるため、総トン数ではなく、出荷量に対する原単位にしたほうが事業所の実態を表すものになる。ただし、生産するものがそれぞれに違うため、数値の取り方が難しい。ごみの再資源化率は、市役所が把握している中での再資源化率のため、若者がよく利用するリサイクルショップまでフォローしきれない。企業は儲かっているが、住民にお金が落ちていない分、ごみも収まっているのだと思う。家庭ごみは減っているが事業系は多いため、Cで良いか。

【各委員】（異議なし）

【久部会長】 事業者と一緒にごみ減量を促す方法を考えたほうが良い。他市では、自社で設定した目標に対する実績を年1回報告することを義務付けるという環境協定を作って意識を促す方法をとっているところもある。頑張れば社会的に評価できるインセンティブを与えられる制度があれば良い。

#### No. 332 環境保全活動

【久部会長】 行政の進捗度も審議会の進捗度もBである。環境モデル都市推進課が独立するのは良いことだが、大学生が小学校の環境教育の出前授業と一緒にさせてもらった際に、ごみ減量は環境モデル都市推進課の担当ではないということで、出前授業のテーマ選びに苦戦していると聞いた。

【事務局】 以前は同じ環境経済部だったが、環境保全課は市民部、環境モデル都市推進課は地域活力創生部と分かれたため、連携を考える必要がある。

【楠下委員】 本来は一本化して進めたほうが良い。環境モデル都市としてのCO<sub>2</sub>の問題と自然生態系とのバランスを考えることが必要である。生駒の自然を守りながら省エネでCO<sub>2</sub>を減らして自然エネルギーを増やすバランスのとれた活動をしてほしい。毎年6月に行なう環境フェスティバルは毎年参加者が増えている。「豊かな自然と歴史と未来が融合したまちいこま」というメインテーマの元、毎年市民への啓発も兼ねてサブテーマを作っている。今年は「COOL CHOICE ～かしこく楽しく今すぐ行動を～」だった。フリーマーケットには若い人もたくさん参加してくれた。このような活動を進めることで、ごみ減量、省エネにつなげていきたい。

【久部会長】 「いこままるしえ」で頑張っているお母さんたちが環境フェスティ

バルにも参加している。今までのように環境意識が高い人だけが集まるのではなく、他分野の社会的関心が高い人も環境イベントで交流し始めていることが、参加者が増えている要因の1つだと思う。他分野の社会的関心が高い人に、どのようにして食指を伸ばせるかが今後の1つのキーである。

【事務局】 それが行政側のコーディネートだと思うが、市民の中にもコーディネートできる人材が出てきていることを感じている。

【久部会長】 今までの環境への取り組みはまじめだったが、楽しくイベントを行えば、楽しさを求めて来る人が増える。ここ数年の生駒の環境のイベントは楽しくなってきたので参加者が増えたのだと思う。

【楠下委員】 ソーラーカーの教室は今年は40人の募集に対して倍以上の参加者があった。おもちゃのかえっこバザールやおもちゃの修理、食品ロス削減として残りの食材を使って料理をするサルベージ・パーティも人気だった。環境も、楽しみを含めて幅広くやってみることが大事だと思う。

【久部会長】 評価としてはBでよいか。

【各委員】 (異議なし)

#### №. 341 生活排水対策

【久部会長】 行政の進捗度も審議会の進捗度もBである。

【中谷委員】 公害の相談件数の実績が半減している。お互いに騒音や振動が発生しないよう配慮していることから、実績値が下がっているのだと思う。

【久部会長】 第6次では生活排水対策の分野はどうなるか。

【事務局】 上水道と統合を予定している。

【久部会長】 一定の成果が出てきているため、継続して取り組んでほしい。

【事務局】 河川のBODを平成18年からずっと取り続けているが、竜田川も富雄川もかなりよくなっている。達成できていない指標の3つ目を担当課で調べた。平均の75%の値だが、特に竜田川はかなりよくなっている。竜田川は、俵口から平群町に向けた流れだが、市街地や駅周辺にあることで上流のほうが数値が高いという珍しい川である。

【久部会長】 BODは単位がmg/Lなので、川の汚染度を見る指標としては難し

い。水量が減ると同じ汚濁物があっても汚染度が大きくなる。

【事務局】 担当課も水量で数値が変わることを認識しており、第6次の指標から外したいという意見もある。

【久部会長】 ちょっとしたブレで大きく変わるような指標は採用しないほうが良い。大きな問題はないため、計画された事業をできるだけ早く進めてほしい。「生活排水対策」はBで良いか。

【各委員】 (異議なし)

#### No. 342 公害対策

【久部会長】 行政の進捗度も審議会の進捗度もBである。生駒市に大きな公害問題は起きてこないため、計画的に粛々と進めてほしい。

【事務局】 第6次では、この分野は整理、統合される。

【楠下委員】 以前は音や臭気が問題だったが、主な関係施設の改善により、全体的にレベルが上がっている。その結果が数値に表れている。

【事務局】 以前は野焼きの相談が多かった。

【久部会長】 「環境保全活動」はBで良いか。

【各委員】 (異議なし)

#### 全体を通して

【楠下委員】 すぐに結果は出てこないという難しい面もあると思うが、長期的な計画に基づいて順次取り組みを進めてほしい。地道な取り組みは市民に見えないため、節目節目で「何年後にはこのような姿を目指して取り組んでいる」ということを分かりやすく紹介すれば、市民に評価される。

【事務局】 以前より、プレス発表や定例記者会見でも発信するようになってきた。

【楠下委員】 駅前再開発計画の際に市役所正面ホールに展示した模型は良かった。あのようなイメージが分かりやすいものがあるとよい。

【久部会長】 分野毎に「この1年間でいくつプレスリリースしたか」、「その中でプレスに取り上げられたものはどれだけあるか」という指標があれば、社会的にメディア露出が多く、インパクトの大きい事業が見えてくる。

【楠下委員】 話題性が出れば、各部局のやりがいにもつながる。

【久部会長】 うちの大学では毎年1月の新年交歓会のときに、この1年間でメディアにどれだけ露出したかを審査委員会を選びメディア賞を出している。賞金は30万円、50万円、1等賞は100万円である。

【楠下委員】 今、近畿大学の人気が高いのは、昔から白浜での魚の養殖などを粘り強くやっていたからであり、その成果が今出ているのだと思う。

## (2) その他

【事務局】 (基本計画原案作成シートについて説明)

【久部会長】 このシートの作成時にどのような話し合いや連携がなされたかが、次を動かす際の一つの柱になるため、作成プロセスを教えてください。

【事務局】 主担当課が書いたものを関係課に目を通してもらい作成している。3枚目の庁内連携の中には、主担当課と関係課以外の課で思い切って書いているものもあり、それについてはすべて合意を得ているわけではない。

【久部会長】 策定中に担当課同士で、そのような議論が沸き起こったほうが良い。ネットワークのきっかけづくりにもなる。

【事務局】 主担当課と直接話をする際に、関係課にも極力同席してもらおうようにしており、主担当課と関係課の話し合いがなされたうえでの記載となっている。事務局としても投げかけ方を工夫した。部内で関係課が集まって作成するなど連携を意識してもらっている。部が離れているところは事務局を通して話をしたケースもある。

【久部会長】 市民に分かりやすい計画は、市役所内では分かりにくいことが多い。課のパッケージとして記載したほうが市役所内では使い勝手が良いが、市民は、これとこれを組み合わせれば、面白いものができるのではないかというパッケージの見方をする。そのため、いつも「市役所内で苦労してください」と言っている。苦労することによって縦割り行政を崩して様々な連携ができ、それが市民のためにもなる。今回はそのような視点で進めてほしい。関係課から、違う分野にも載せてほしいという声がどんどん出てくれば良いと思う。

【楠下委員】 最初にどこと連携してどのようにするかがあれば、庁内のコミュニケーションがよくなると思う。単独の課ではできないことも、連携すれば

できるものがある。そのような意味からもこのパターンは有効である。

【事務局】 実際に「連携したいと思って記載したがどうしよう」という相談もあったため、直接連携を取ってもらったり、仲介に入ったりしている。

【楠下委員】 そのような質問があるということは考えてもらっているということなので良いと思う。事ある毎に連携を取って進めるほうが庁内全体の効率が上がる。

【事務局】 （事務連絡）

【久部会長】 これをもって第1回総合計画審議会 第二部会を終了します。

—— 了 ——